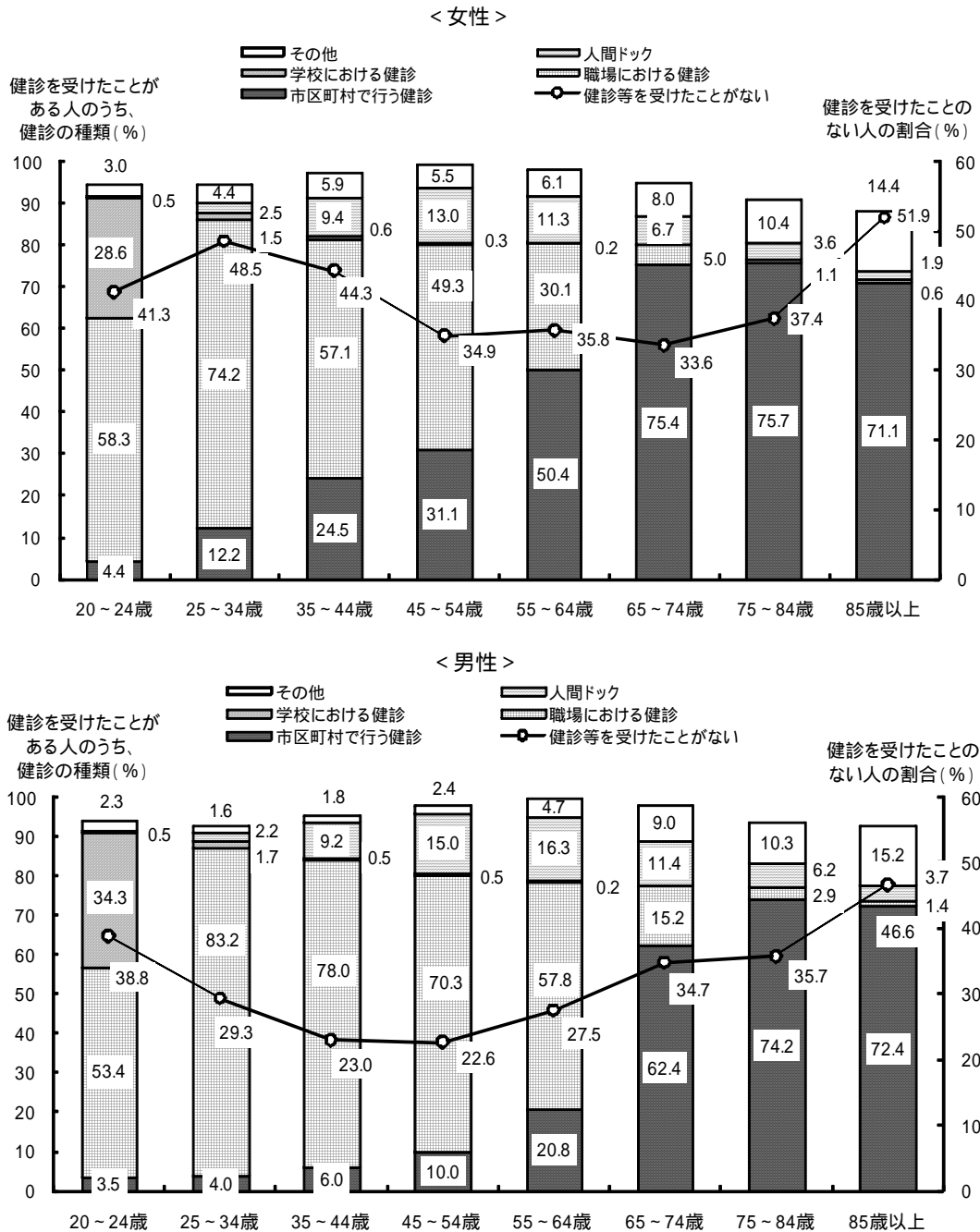


4. 生涯を通じた男女の健康支援

1. 年齢階級別健康診断受診率

全国で健診を受けていない人を年齢階級別にみると受けていない人の割合が最も高いのは、女性は85歳以上(51.9%)、続いて25~34歳(48.5%)、35~44歳(44.3%)であり、男性は85歳以上(46.6%)、続いて20~24歳(38.8%)、75~84歳(35.7%)となっている。

図表 - 4 - 1 年齢階級別健康診断受診率(全国)



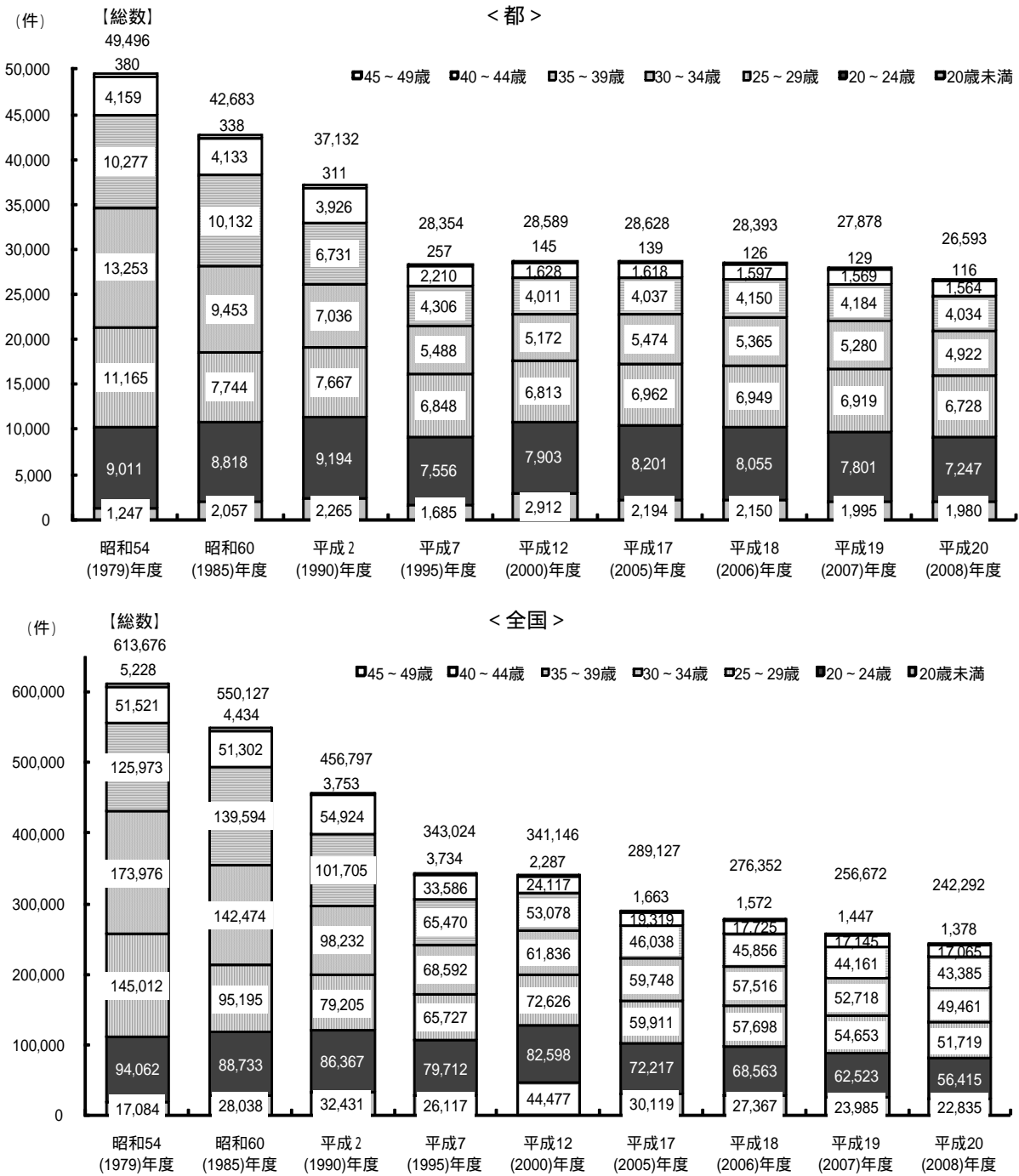
注：健診の種類は複数回答

資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」平成19年

2. 人工妊娠中絶件数

人工妊娠中絶件数は、都では昭和54(1979)年度の49,496件から減少し、平成7(1995)年度以降は28,000件前後で推移していたが、平成20(2008)年度は26,593件とやや減少した。全国では昭和54(1979)年度の613,676件から減少傾向にあり、平成20(2008)年度には242,292件になっている。

図表 - 4 - 2 人工妊娠中絶件数の推移(都・全国)



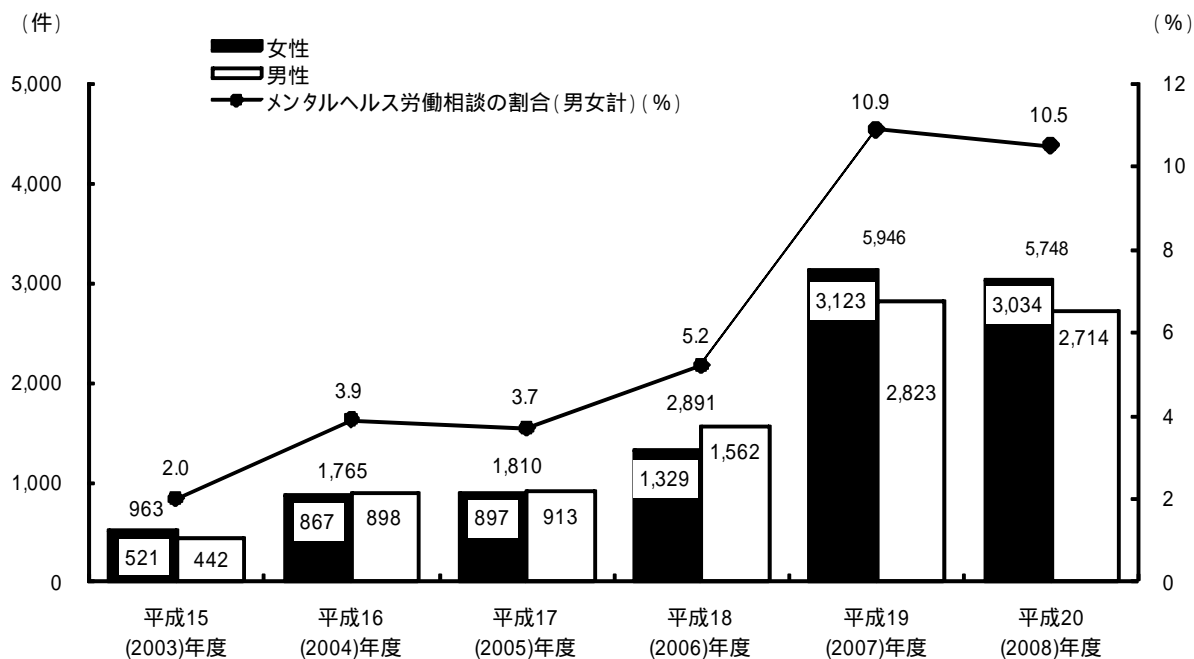
注：【総数】には「50歳以上」「年齢不詳」を含む。

資料：厚生労働省「保健・衛生行政報告例」

3. メンタルヘルス労働相談件数及び内容

都のメンタルヘルス労働相談件数はここ数年増加傾向にあったが、平成 20(2008)年度は女性 3,034 件、男性 2,714 件であり、大幅に増加した平成 19(2007)年度並みの水準である。

図表 - 4 - 3 メンタルヘルス労働相談件数及び相談割合の推移(都)



注1：労働相談全体に占める割合

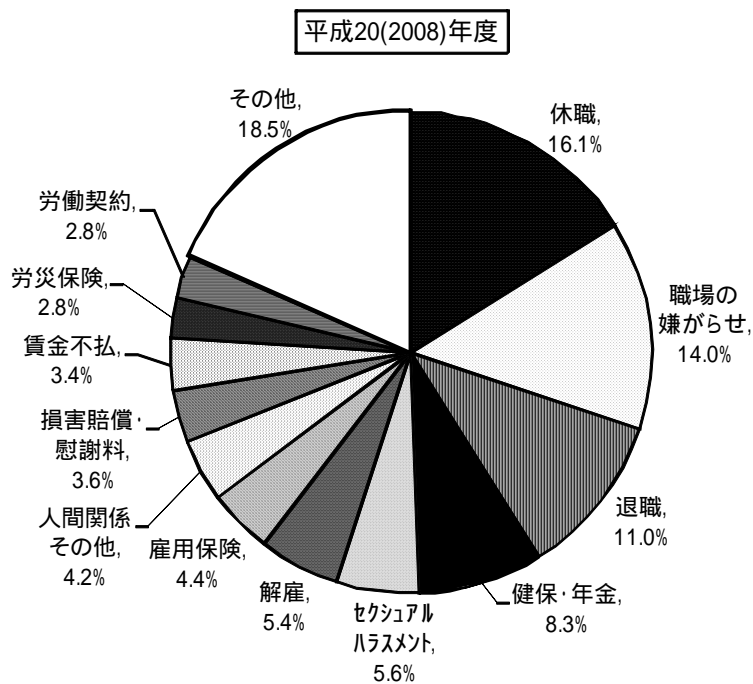
注2：労働相談・あっせんの中では、本人自らが「心の問題を抱えている」と話した場合、使用者との調整の中で心の問題が浮かび上がってきた場合のみ「メンタルヘルス」としてカウントしている（相談担当から確認するような行為は、労働相談の円滑な進行を妨げるおそれがあるため）。このため、数値は参考数字である。

資料：東京都産業労働局「労働相談及びあっせんの概要」

都の平成 20 (2008) 年度のメンタルヘルス労働相談の内容を見ると最も多いのが「休職」で 16.1%、続いて「職場の嫌がらせ」14.0%、「退職」11.0%の順となっている。

図表 - 4 - 4 メンタルヘルスに関する労働相談の内容(都)

<メンタルヘルス労働相談の内容>



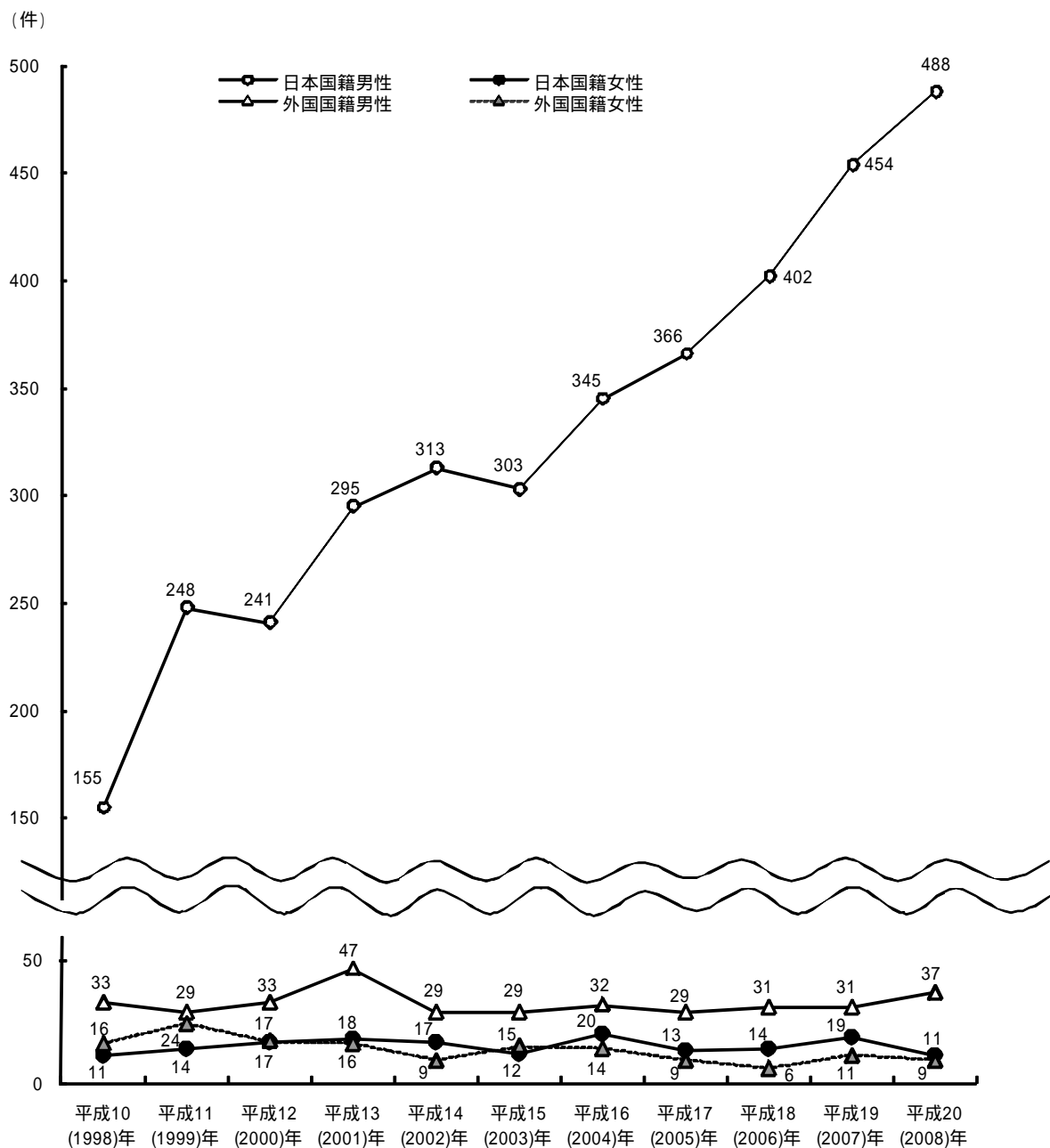
注：上位 12 項目のみ表示

資料：東京都産業労働局「労働相談及びあっせんの概要」(平成 20 年度)

4 . HIV 感染者、AIDS 患者数

平成 20 (2008) 年の都内における HIV 感染者及び AIDS 患者の報告数は、「日本国籍男性」が 488 件であり、増加傾向にある。

図表 - 4 - 5 HIV 感染者、AIDS 患者数の報告数の推移 (都)



注 1 : HIV 感染者とは、HIV (ヒト免疫不全ウイルス) が体内に入り、「感染」した状態になっているが、「発症」していない状態の者を指す。

注 2 : AIDS 患者とは、HIV により免疫機能が低下し、「指標疾患」と呼ばれる、決められた疾患の症状が認められた者を指す。

資料 : 東京都福祉保健局「平成 20 年東京都の HIV 感染者・AIDS 患者の動向及び検査・相談事業の実績」